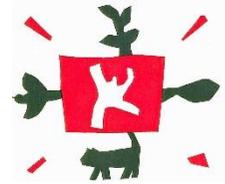




共同通信



2018年2月23日 258号(467号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 156

「やりきった！」

今年度の母の会役員は、まず最初の総会でにぎやかなお披露目をしました。それを皮切りに、毎度お騒がせのメンバーだったようです。行事ごとに羽目を外しては、子どもたちより楽しませていただきました。ちなみにお披露目での私は木村佳乃だったり、ロケットをつけて跳ばされたり、ユズのお面をかぶったり、リコーダーを演奏したりしました。使わせていただいている3階のお部屋では、いつもおしゃべりが弾み、女子学生気分です。楽しく活動させていただいてきました。たまにおしかりを受けることもあります。が、こんな私たちを泳がせてくれている

幼稚園の懐の深さに感謝しております。

我が家が上の娘を共同幼稚園へ通わすことになったのは、恥ずかしながらこれといった信念があったわけではなく、家から通える範囲内であって、肩ひじ張らない自然な雰囲気にはかれてという感じだったのでしょうか。いずれは共働きして保育園に通わせようと思っていたので、青いズボンを用意するだけで入園できて気楽だな…くらいの気持ちでした(笑)。実は、上の娘の3年間に続いて下の息子の入園までに、保育園へ申込みまでして転園という機会が2度ほどあったのです

時代にふり回されるのではない

あの時 心を躍らせて生きた

後悔に 身をふるわせたこともある

笑い 泣き 歯ぎしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい

自分の人生を語ってほしい

が、共同幼稚園の魅力にはとてもあきらめきれることができず、プレ保育も含めると幼稚園とのお付き合いは6年越えとなりました。

入園してから、園からのまめなお便りや丁寧な手作りの贈り物のお土産に感謝し、また娘の様子を見ても「あれ、何かこの幼稚園楽しそうだな」と思い始めました。親が色々大変な幼稚園だ、との噂も聞いていましたが、そんなものはどこかに吹き飛び、娘が楽しそうに話してくれる幼稚園のことにあれこれ興味がわくようになりました。幼稚園に入園するまでは母子の関係だけの閉塞感もある毎日で、子育ての負担の多さに少ししんどいとも思う生活でしたが、そこから新しい世界が開けていった感じです。下の息子を抱っこしながら、可能な限りのイベントには顔を出しました。幼稚園以外にも、礼拝って何？駅前イベントって？生ライブが観れる？など次々に見えてくる新しい世界が新鮮でした。そして1年目の途中から、お友だちが活動している紙芝居を制作したり子どもたちに読みに訪れたりする活動をのぞかせていただき、休み休みではありましたが参加させていただきました。その活動をはじめ園のお母さんたちは他にも園芸とか文庫などいろいろな集まりそれぞれの働きを担っておられ、どこにも素敵なお先輩ママさんたちがいっぱい。幼稚園の面白い話を聞かせていただき、楽しそうな活動の様子を憧れのまなざしで見っていた気がします。

また、3階で何かと仕事をしておられる役員さんたちの生き生きした笑顔も印象的でした。好奇心でいっぱいの幼稚園生活のスタートでした。母の会の役員になった今となっては、忘れてはならない当初の気持ちです。

母の会役員の仕事は、幼稚園行事などのサポートが主ですが、様々なことを経験させてもらえます。子どもたちの園生活を垣間見ることもできます。まったく飽きることはありません。手先も鍛えられますし、作業を手早く終わらせる技もどんどん進化を！です。今年度の役員は14人。14人も集まるといろいろな人がいてにぎやかです。桑田代表は大らかで、無茶なアイデアが出て否定せずに、面白いね、やってみようか！と言ってくれるタイプで役員内は遠慮のない風通しのいい雰囲気です。それぞれ得意なこと、苦手なこともあります。なぜかバランスがとれていたりします。プロ並みに手先の器用な人もいますし、ゆっくりだけど丁寧な作業をする人もいます。アイデアが面白い人、お話し上手で大笑いさせてくれる人、スマホツール職人、元保育士さん、博学、プロのママ(!)など多才。年代もさまざまですが、私と近い年齢の人も多く、個人的にはバブリーな昔話にお腹を抱えます。時間短縮レシピを教えてもらったり、お買い得情報、子どもの悩み、などなど話題はつきません。同じ方向を向いている同じような境遇のお母さんたちとたわいない話で共感し世界が

広がると、自分だけでは処理できなくて抱え込んでいた悩みもずっと楽になります。苦しいことは減るし、楽しいことはみんなで共有すると何倍にも楽しくなります。ただ、母親の優先順位としては家庭が一番大事です。役員の活動と両立することは正直大変です。持ち帰り作業となってしまうと、睡眠も削らざるを得なくなり元気なお母さんでいられなくなります。面白くてもやりすぎは禁物と常々思っています。

見た目には対価がないと思われがちな役員仕事ですが、たとえばボランティアにはまる人の言葉に「誰かに感謝される嬉しさ、役に立つという喜びは自分にとって幸福感をもたらしてくれる」とありました。確かに役員仕事も、子どもたちのびっくりした姿、喜んでくれる笑顔を間近で見られるのはこの上なく嬉しいことです。先生たちや他のお母さんたちから感謝の言葉を言われることも心に染み入ります。ひと仕事やり終えた達成感がすがすがしくて気持ちのいいものです。それはお金では買うことができない貴重な経験です。人に与えるものが多い人は得るものも多いはず。子どもがかわいい年頃の、たった1年、とことんつきあって見るのもいいのだと思えたのは大きな収穫でした。私の父親は、山を好きな人に悪い人はいない、と言っています。山を好きな人は共同幼稚園にはたくさんいます。役員仕事も登山に似ていて、登るのはつらくて苦しくても、役員の同志が

いると元気づけられ、助けあって負担は減り、みんなで頂上に登ったら感動もひとしお。すがすがしい！そんな感じですよ。というわけでこの1年、やりきった！

(倉橋 深緒)



～どろんこと太陽～2017

西宮共同幼稚園の子どもたち

♪ねんにいちどのもちつきは ぺったんこ ぺったんこ～
おもちのわらべうたがたくさん園舎に響いた1月。年に一度の幼稚園でのもちつき大会と私が出会ったのは3年前。今年の年長さんがぼっぼさんの頃「きなこ～!!」と、口の周りにきなこをたくさんつけて嬉しそうに食べていました。そんな子どもたちが今年はおもちをつく！ただただかわいかったぼっぼさんの頃の表情に、たくましが加わった年長さんのかっこいい姿を見ながら、来年は僕たち私たち！ときっと思っていたであろうさんぼらったさん。まだ???で、3年

前の年長さんと同じようにただただかわいい、口の周りにきなこをつけて嬉しそうにおもちを味わっていたぽっぼさん。そんなもちつき大会の前には、ピコピコ風船のきねで順子先生がおもちつきのつき手を！かえし手はもちろん子どもたち！なんとおもち役も子どもたち！笑い声が絶えることのないみんなでの集まりでは寒さも吹き飛んでしまいます！そんな日々の中で、毎年受け継がれていく思いと子どもたちの姿、そしてわらべうたがあふれる幼稚園での毎日です。

♪たこたこあがれ てんまであがれ～この歌も！この歌とともに！がもうひとつの冬ならでは～。たこあげも子どもたちが何日も前から楽しみにしていました。たこを描くときからワクワク！早く持って帰りたいとうずうず。子どもたちひとりひとりの思いがたくさん詰まった絵とともに空高く舞い上がりましたね。よく揚がるビニール凧ですが、ビニールの大きさの比率や凧の足、そして竹ひごのバランスが大切なのだそうです！たこあげ大会でビニール凧と一緒に同じ空で風に乗っていた“彦一凧”の作り方を園長先生に教えていただきました。自分で作って揚がった時の喜び！より一層大きい。本当にそうだと子どもたちと同じ思いで楽

しんだたこあげ大会でした。走らずに揚げるのは少し難しい凧…。あの日、風はあまりなくて～でしたが、とても高く何メートルくらい上がっているのかな？と思うほどでした。園長先生や竹花先生、加藤先生の凧が高くて、その凧を追うことを楽しんでいる子どもたちもたくさん！みんなの思いはひとつ、そしてみんなが同じ空を見上げる、そんな豊かなひとときでした。「空より高く」や「きみのそら」の歌を歌いたくなる一日でした。

たこあげ大会の数日後の出来事。「ねえ、お鍋おいしかったよ！」とぽっぼさんの女の子。「昨日の夜ごはんお鍋だったの？」と聞くと、「違うよ！たこあげの時の！」と教えてくれました。「園長先生に教えてあげたらきっと喜ぶね」と言うと、「えー！園長先生が作ったの？」とびっくりしていました。その女の子にとってのたこあげ大会の思い出＝おいしい共同なべ♪寒い日々が続いていますが、きっと子どもたちの心では日に日にあたたかな思い出が増えていっていることでしょう。北風もいいけれど、そろそろサヨナラして、春の風を迎える準備を～そんな出会いもたくさんあるこの頃です。

(原田 絵梨)

教会の火曜日 10時から12時 於：西宮共同教会集会室

第1火曜日	わいわいお茶会
第2火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか
第3火曜日	読書会
第4火曜日	社会のこと、世界のこと

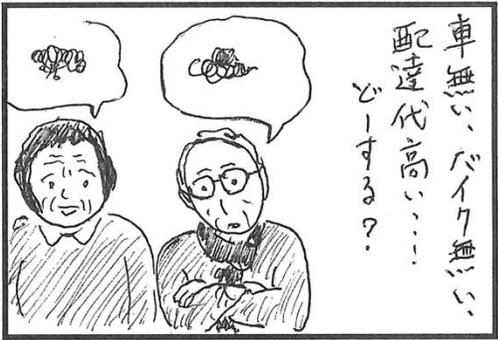
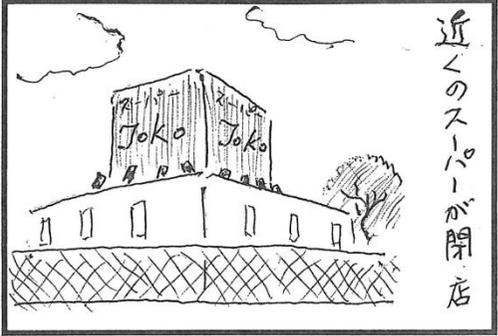
☀️ 晴れのち福ちゃん さちお作

ア リ か ト



🏠 晴れのち福ちゃん さちお作

買 い 物 難 民



あんなこと こんなこと

2018年1月21日(日)

アニマルコンチェルト

幼稚園舎2階

安永早絵子さん6人組の打楽器音楽と、ダンスのプログラムの公演でした。元気いっぱいの子どもたち、そして大人たちも！みんなでワイワイ踊って汗かいて、最後はスペシャル企画！楽器の体験もさせて頂きました



2018年1月27日(土)

公同もちつき大会

朝、準備をしていると雪がチラチラと…。でも、お屋には元気なみんなの声のおかげで、お日様が。♪「おしょうがつのもちつきは ペったんこ ペったんこ ペったんぺったんぺったんこ〜」と、園長先生や年長さん、お父さんたちがついた美味しいお餅を、たくさんいただきました。



2018年2月3日(土)

公同たこあげ大会

武庫川河川敷

お昼前にはたこあげ日和の風で、みんなのビニールだこや、彦一だこが、武庫川上空を飛んでいた飛行機に負けなくらいきれいに上がっていました。お昼ごはんには、薪ストーブで作った温かい公同鍋をいただきました。



2018年2月18日(日)

教会学校礼拝

なんと身長195cm! 足のサイズは、29.5cm! 大きい! ビックリ! 元プロバスケットボール選手の勝又英樹さんが、公同教会にやってきました。現役の時は、大阪エヴェッサでも活躍されていたそうです。

園庭で、ボールの持ち方から、投げ方など、丁寧に教えてくださり、バスケットボールの楽しさを味わうことができました。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

「逃げる」2月を追っかける気合いがなく、これじゃあ、いかんでしょと思いつつ、腰をかばい風邪をひくのだけはとの守りの姿勢の2月を過ごしています。

2018年も2月に。5年前の2月に素敵な師匠を見送りました。颯爽とした紳士、高齢ながら一人暮らしをしておられたのですが、ある日郵便受けに新聞がたまっているのだからそこからマンションの一室を覗いたら倒れておられた、そんな形で発見されたのでした。颯爽と、とは書きましたが、病院通いもあったり、またその前年から弱気のお電話に気にかかっていたのは確かです。

1976年長女の出産間際に絵本の講演会でお会いし、紹介していただいて知己に。次にお会いしたのは1979年3月に誕生予定の大きなおなかで。「順子さんは会うたびにおなかが大きかった」、たった2児ですが人に紹介するたびにそう言われていました。

1982年東京に呼んでいただいて母の友への連載を推してくださいました。福音館書店の編集がお仕事でした。そして1983年度の一年間の連載が。一言も何も言われない編集長で、担当にすべてを任せておられて、直接には7月ごろになって「やっと力が抜けたね」とボソッと。書くことでの力を支えてそして広い世界に押し出してくださいました。ところが

です。そのあと、いろいろなところに書く、話に行く、の機会が増えていきますが、ある時強烈なアッパーカットを浴びることになりました。「書いたりしゃべったりばかりしていると人間がダメになるよ」、「僕は子どもと楽しそうに向き合っている順子さんが一番いいと思う」「編集者としていろいろな人に出会ってきたけれど日本中で二人素敵な保母さんに出会った」(あとの一人って誰だろう?)というので、その後書くも話すも自慢することはできない、年に1回ほど出会う機会があるとこれぞマイナーというような映画の話とか面白い人の話とか、行かれた外国の街のこととか。こじやれた会話とお酒の素敵なたしなみとを楽しませてもらったものです。

存命だったら90歳を越えてられますが、年齢を重ねて旅立たれるのはしかたがないとしても、上の方々がどんどん(ほんとに!)いなくなっていくのは寂しい限りです。

思えばいろいろな編集者に出会い実に豊かな関わりをしていくことができた、書くということだけでなく人として育てられてきたなと思います。女性もおられました。「楽しい実践」と「書く」が両立している人は珍しい存在だといっぱい励ましてもらったり、編集の任を担われていた一人の方が大学での勤務に。ずいぶん誘っていただきましたが、最後にわたしに言い聞かせるかのように「先生は子どものところにはいないと」。でも非常勤で

の紹介をいただいて早や7年目に。こうやっていろんな方に出会い育てていただいてそして今が。

しかしすべては「子どもがそこにいたから」、これに尽きます。

面白すぎる毎日、こんな毎日でいいのかしら、そんな毎日です。

「フレデリック」という絵本があります。1969年に出版されたもの。レオ=レオニも知らずに、梅田に開店したばかりの紀伊国屋書店で手にとりました。豊かな色、豊かなことば、人を幸せにするそれらで何より自分も豊かになっている「ちょっとかわったのねずみのはなし」です。

年長の子どもたちとこの1年を思い出してみたら、いやいやほんとにいろんな時間が。文集に寄せてくださる保護者の方々の「他ではできない体験」「盛りだくさんの日々」とのことばがうれしい、まあいろんな光景が目に見えられます。でも「行事やイベントがなくても園に行けば仲間がいる、居場所がある」とも書いてくださっているのも大事な一言。そのことばを表すような子どもたちの絵、山に海に畑に美術館にとあちこちへの遠征、太鼓を叩いたこと、たこあげにもちつきに雪山に、それはそれはの「豊かな体験」、そして毎日の居場所を一人一人が大切に思いその時間を活かしている子どもたち。みんなで遊んだ園庭の時間、なわとびにこま回しに、そこには仲間がたくさん。それらをそれぞれが絵に描き、その風景は1枚も同じものがない。

みんなフレデリックのように詩人、だから朝は零下ということもあった寒い冬でも元気な声が響きわたっています。



公同幼稚園ではよく全園児で集まります。冬だと「寒いから行きたくない」という子どももいるので2階でのちょっとした時間をよく工夫します。「集まりだよ～」の声が聞こえたら5分もしないうちに園庭は空っぽに。せっせと2階へ駆けあがっていく姿が見えて、そして歌声が聞こえ始めてくる、そのころにおもむろに部屋に近づくと階段を上がっていくわたしに気づき「パッ」と顔が輝くのが見えたり、「おたのしみだね」という声が聞こえてきたり。力が湧く瞬間です。それにしても自画自賛、「なんでこんなにいろいろ思いつくんだろう」、フレデリックの絵本を読んだあともしっかり遊びを展開。この日はいろんな色の布を用意していて、その色からイメージする子どもたちとの時間を先生たちが言っていくリレーを楽しみました。出るわ出るわ、いっぱいの色がこの1年、子どもにおとなにあったなあ、たくさんの大きさのフレデリックがそこにいました。

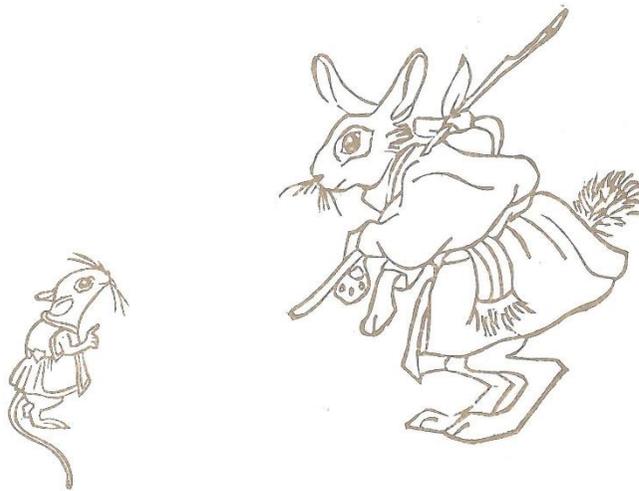
ところで今も素敵な編集の方に支えら

れています。2012年度の1年のわたしのおたよりから本にまとめてくださった方。今は、子どもたちの世界がおとなの支えにより広がっていくことを形にしたいと、これまでのたくさんの出会いをまとめきれずに、材料を抱えて困惑しているわたしの味方、「いのちにふれて子どもは育つ」と題目も提案してくださって整理を応援していただいています。

「こうぞう版行動報告書」

介助に来てもらっています。現在、入浴（週3回）と外出（月35時間）でお世話になっています。入浴は国の制度で、外出は市の制度です。そもそも外出は、10数年前事務所への送迎で使っていましたが、その必要はなくなったのでプライベートで使うことになりました。冬季に自粛していた外出も、ぼちぼち解禁です。やりたいことがいっぱいです。

（下平 浩三）



日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第1・3水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室
読書会	毎週第2・4水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室

（早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。）

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

私たちが住んでいるカリフォルニアのサンノゼ市には、たくさんの人種の人々が住んでいます。特にアジアからの移民が多く、インド人、韓国人、台湾人、中国人、日本人、ベトナム人の占める割合もとても多いです。また、メキシコ人も多く、様々な文化が入り混じる中で生活をしています。

お風呂に浸かりたくなったら韓国スパに行き、新鮮な野菜や豆をたくさん食べたくなったらメキシカンマーケットに行き、カレーが食べたくなったらインドカレーは格別、安いヘアカットならベトナムヘアサロンがおすすめ、ボバティーの作り方なら台湾人の友達が教えてくれる、クラフトを素敵に作るにはダイソーに行く、そんな環境です。たくさん文化やそれぞれの国の良さや特徴を肌で感じながら、それを当たり前のように感じて過ごす毎日です。そしてその中で改めて「やっぱり日本ってこういうところがいいな」とか「さすが日本の味だ」とか「細やかな作業だなあ、さすが日本」などと思うのです。

先日、ローズマリー・ウェルズ作の「Yoko」という絵本をクラスの先生が学校で読んでくれたと息子が話してくれました。この絵本はとっても絵が可愛くて、内容も「日本」に通じているので気に入っている絵本でしたが、息子が一生懸命内容を伝えてくれた時に、自分で読んだ

時とは違った印象を受けました。息子は、「ヨーコという猫がいて、その子の学校で先生がパーティーを開いて、自分の国の食べ物を持ってきてと言ったの。そしたらブルドッグやウサギ、クマとかがそれぞれの国の食べ物を持ってきたのね。ピーナッツバターサンドイッチとかソーセージとかチーズの料理とか。ヨーコは寿司を持って行ったの。そしたら、みんなの持ってきた食べ物はすぐに全部なくなったのに、ヨーコの寿司は誰も一つも取ってくれなかったのね。ヨーコはとっても悲しかったの。そしたら、タヌキがきて、まだお腹が空いてるって言って、ヨーコの寿司を食べたの。そしたらタヌキはとっても美味しい！ってヨーコの持ってきた寿司を気に入って食べたの。次の日からヨーコはたぬきに箸の使い方を教えてあげて、お弁当を交換して食べるようになったんだよ」と話してくれました。

なんだか、自分たちの生活がそこで話されているような気持ちになり、ある種の感動を覚えました。文化の違いに戸惑い、時に違いに嫌悪感を示し、示され、トラブルになったり、ぶつかったりすることがあります。でも、小さな優しさやほんの小さな行動からその溝が取り除かれ、人種を超えて、文化を超えてグッと縮まる関係性があります。そんな関係性に支えられて生きる毎日です。

(山本 知恵)

名護ぬ七曲 (65)

沖縄の文化 7 冊封

今日は沖縄と中国の間の朝貢と冊封の関係について。沖縄からの朝貢については前回触れましたので、今回は中国からの冊封について主に見てまいりましょう。『ジュニア版琉球・沖縄史』の39頁以下に、概要が書かれてありますので、そこを読んでまとめてみることにしましょうね。

【冊封】まず前提となるのは「中国が世界(宇宙)の中心」という思想に基づいた当時の東アジア世界秩序。「華夷思想」、「中華思想」については色々ご意見もあるかとは思いますが、当時としてはそのような認識がアジア国際秩序に作用していたということで話を進めます▼それで沖縄も中国皇帝に贈り物を贈って、「私たちが文明の仲間に入れてくださいよ～」とお願いするわけですね。すると皇帝は「しょうがないなあ認めてやろう」ということで、その朝貢国を一つの国家と認め、君主に対しては適当な称号が封じられることとなります。琉球国の君主に与えられた爵号は「王」ですね。王が交替する度に冊封の儀式は繰り返されます

【冊封使】冊封のために派遣される中国からの使節団を冊封使といいます。渡海技術者を含む総勢 400 名くらいの一団だったそうです。お迎えする方も大変です。半年間くらい滞在していたそうですから、その間ずっと粗相の無いようオモテナシ

を続けなければなりません▼沖縄の伝統古典芸能「御冠船踊」も、こうした冊封使を歓待する宴会芸として生まれた踊りだそう。「中国からの使節団が新しい王冠を携えて船に乗ってやって来た～」という意味。かな?▼更に使節団は様々な交易品を船に積載して来ており、それを琉球王府は中国側の納得価格で買い取らなければならないという負担もあったそうです。平均すると 20 年に一度のペースであったとはいえ、462 年間まあとにかく中国に対しては気を遣いまくったことでありましょう。

【諭祭】新王の即位式に先立ちまして執り行われますのが「諭祭」という儀式。先王の慰霊祭ですね。那覇の泊にあった崇元寺というお寺で行われていたそうです。今は石の門だけ残っていて公園みたいな感じになってますね。

【即位式】新王の即位式は首里城で行われていました。ここで下賜されるのが皮弁冠と言われるあの上等な王冠。それから皮弁服一式。そして大統曆という中国のカレンダー(?)。中華標準の共有という意味でしょうかね▼そういえば、こどもの頃住んでた佐伯市(大分県)の実家でも毎年ガス屋さんから年末に新しいカレンダーを頂いてました。16年間毎日トイレの度に「(有)長沢プロパン」という名前を目の当たりにしてましたので、30年以上経った今でもその社名はしっかり私の記憶に刷り込まれております。カレンダー一広告…恐るべし。

【落漆】何のことかと思ったら、どうや

ら沖縄近海にあると言われていた伝説の海流で、滝のように流れ落ちるその水の流りに巻き込まれたら一卷の終わり、船もろとも海のもずくと消えてしまうよりほかないのでありました。冊封使船に限らず、こちらからの進貢船も一般の商船も渡航の危険は同じですけれどもね。使節に任命されたらある程度覚悟が要ったかもしれませんね。

琉球は中国(明)から立派な王印も頂いております。首里城にそのレプリカが展示されていたと思います。結構なラージサイズであったことに驚きました。思い出すのは福岡市博物館で見たあの金印「漢委奴國王」。こちらも勿論レプリカですが、そのスケールの何とまあ小さいこと。時代が全然違うとはいえ、紛失しても仕方ないぐらいの小ささです。私は思いました。そのミニ金印は実は「お前たち(日本)はせいぜいこの程度だ」との中国側からのメッセージで、それを受け取った日本も、紛失したのではなく、「何だバカにしやがって」と憤慨しながら投げ捨てた一ものではなかろうかと想像するわけです。もちろん根拠のある話ではありません。そうだったら面白いのになあと思っただけです。

(羽柴 禎)



2018年 教会と子どもセミナー ～子どもと遊ぶ 絵本で遊ぶ 子どもが遊ぶ～

2000年3月に第1回目のセミナーが行われ、クリスチャンセンターの2階の部屋で、絵本の話をお願いいただいたのを懐かしく思い出しています。絵本ってこんなに楽しい、子どもたちとこんな風に過ごしている、と熱く語ったと思いますが、はっきり覚えている絵本は『みかん』（福音館書店「かがくのとも」）。そして司会進行は川上 盾さん、もう一つ川上さんが、語っている私の顔を見ているとあまりに楽しそうで～と言われたこと。

そう、絵本って楽しいのです。そして、そこに子どもがいるともう楽しすぎます。

そんな時間にぜひ仲間入りしてください。こんな機会をまた与えていただくことになり、わくわくしています。

(菅澤順子)



日時:2018年3月21日(水・休)

午前9時45分受付開始、午後3時解散

場所:兵庫教区クリスチャンセンター

1部:子どもたちとの時間——そこには絵本がいっぱい
講師:菅澤順子さん(西宮公同幼稚園で子どもたちと遊ぶ日々を楽しみながら、数校の大学の非常勤講師、福音館書店社外講師も担当)

2部:絵本を読んでもらったら、あそびたくなつた!
——絵本からのヒントでいろいろあそんでみよう
コーナーを用意します。ワイワイ楽しみましょう。

作ってみよう、楽器で遊ぼうなど

参加費:1000円

持ち物:ごはん(容器に入れて)、スプーン、水筒

申込み:申込書に記入の上、兵庫教区事務所(FAX078-856-4128)まで

問い合わせ:宮本真希子(090-3719-6709)

主催:兵庫教区教育部委員会2018年教会と子どもセミナー実行委員会

～つとがわ・あれこれ～

気になる人で、書いたものを読みついできた人が相次いで亡くなっています。

1月22日には、ル・グウィン、2月10日に石牟礼道子、2月20日に金子兜太などで、1月21日に亡くなった西部邁（にしべすずむ）は、ほとんど読んでいませんが、気になる人でした。40年来の付き合いだという佐伯啓恵（さえきけいし）が、「追悼の文章」（1月25日、朝日新聞）「いかに最期を迎えるか」（2月2日、朝日新聞）を書いています。「西部さんの最期は、ずっと考えてこられた挙句の自裁死である」「西部さんは、常々、自身が病院で不本意な延命治療や施設で介護などを受けたくない、と言っておられた。もしそれを避けるなら自宅での介護に頼るほかない。だがそれも避けたいとなれば、自死しかないという判断であったであろう」（前同、朝日新聞）。聞きなれない「自裁死」は『自裁』の意の古風な表現だそうです。かねて、それに言及していたのが西部邁だったとのことです。「昨年12月に刊行された『保守の真髓 老酔狂で語る文明の素乱』は送ってくれた。末尾に『人工死に瀕するほかない状況で病院死と自裁死のいずれをとるか』とあって、『遺言』とも読める」（『文藝春秋／自裁死・西部邁は精神の自立を貫いた』保坂正康、浜崎洋介対談、2018年3月号）。

言われている「自立」は、対談している2人や西部邁の理解では、例えば「自裁死」を「確かに彼は『保守思想』ですが、彼が嫌いなのは、何よりも権威主義。偽善、嘘っぱち、虚飾、地肌が見えないものに対する怒りは物凄かった」（前掲、対談）。ことを貫くことだと考えられていて、それが「貫かれない」時に選んだ自立、即ち「自裁死」ということになるのかも知れません。

「ゲド戦記」の著者にして知られるル・グウィンの講演記録などをまとめた1冊が「ファンタジーと言葉」です。88歳で亡くなったル・グウィンが70歳頃にまとめられています。冒頭の「自己紹介」で、「1990年代初めに、パフォーマンス用に書いたもので…、今回この本のために少し手を入れた」「今、わたしは70歳を超えています／年とっちゃったのです」と書いています。そこで、自分が「男らしくない」こと、「大変男らしい」アーネスト・ヘミングウェイのことを言及しています。「アーネスト・ヘミングウェイは老人になるぐらいなら、死んだ方がましだと思った人でしょうね。だから死んだんです。銃で自殺しました。短いセンテンスですよ。長いセンテンス（実刑判決）、一生続くセンテンス（終身刑）だけは我慢できないってわけ。大変男らしい」。それに続けて、自分（女）のことを書いています。「一生続くセンテンスは違

います。延々と続いて、いろんな構文、修飾語、紛らわしい先行詞が山のようにあるし、おまけに年をとる。というところで、私が全然人間になれていないことの本当の証拠が出てくるわけです。若くさえない人ですから。…恥ずかしげもなく、自分が老人になっていくのをそのまま放置して、銃を持ち出したりを含め、何一つしませんでした。「つまりは、本当の自尊心があれば、少なくともフェイス・リストをするか、皮下脂肪を取る（liposuction）がした人じゃないかってこと」。

2月20日に亡くなった俳人・金子兜太は「そういう人には気取りがありませんよ。平凡なままに一生懸命に生きています」「そして、素晴らしい感性を持っている」「俗物ですよ。そのくせ妙に懐かしい」人として生き「自由人」としての俳句を詠み続けました。「眼玉」は、ギョロリと光り続ける人として。

長生きの 臍（おぼろ）のなかの 眼玉かな

2月10日に亡くなった石牟礼道子も、「気取りがなく」「平凡なまま」「一生懸命生き」「素晴らしい感性を持ち」「俗物で懐かしい」人として生き、語り、書き続ける人でした。そして、2011年3月の自然の猛威を目の当たりに「花を奉る」を書き、それを次のように結びました。

ただ滅亡のせまるのを待つのみか
ここにおいて
われらなお地上にひらく
一輪の花の力を念じて合掌す

(K)

昔、うちの店でアルバイトをしていた女の子が、昨年結婚したと、報告を兼ねて店を訪れてくれました。結婚の是非について相談を受けていたので入籍したことに少しビックリ…。ご主人の方が、サッカーの選手の外国人の通訳をしていたのですが、そのチームに外国人がいなくなり、無職となって、所詮、髪結い亭主。結婚には反対しませんでした。賛成もしなかったのを覚えています。まあ、結婚は、本人次第。お祝いということで、いつもの似顔絵のプレゼントを約束。いざ、取り掛かったのですが、ご主人の方は、すぐに完成。奥さんの方が、なかなか気に入らず1ヶ月。ひとまず何とか背景を描いたところ、スプレーが顔の部分にかかってしまい…。またやり直し。顔の部分のみ描き直し、切り抜き上から貼るという作業。これ

また貼っているということがバレないようにする工夫を必死になつての作成。結果、1ヶ月半の仕事でした。最終、甲風画苑さんにて額装をしてもらい、完成！調子の良い時は、2週間くらいで完成するはずなのに…。でも、時間がかかっている分、良いものが出来上がり満足！でも、どんな力作でも似顔絵だけど、結局は相手に渡される。似顔絵は、その人たちのものだから。

(Y)

石岡市の八郷（やさと）地区に、“朝日里山学校”という施設があります。ここは平成16年に廃校になった小学校で、木造平屋建ての校舎やグラウンドをそのまま活用し、地元の農産物や自然、歴史などの地域資源を活かした体験プログラムやイベントが定期的に行われています。先日は、朝日里山そばまつりに行ってきました。筑波山周辺のそば打ち団体が集まっているので、手作りそばが味わえます。一年前も行ったのですが、そこで食べた“里山そば”がすごく美味しくて、来年も絶対に来ようねと言っていました。地元産の野菜と筑波鶏が入った里山そばはお出汁が絶妙で体が温まります。蕎麦はもちろん手作り！教室が作業場になっていて、それぞれの団体ごとに分かれて蕎麦作りが行われ、出来たてを味わうことができます。鴨そばや天ぷらそばなど色々な種類があり、食べ比べもできるのがいいです。そして校舎の奥には石窯があって、手作りピザも販売しているのです。(いつも行列！) なんだか公同幼稚園に似ているなあ～と思って嬉しくなります。次はいちごまつりの時にイベントがあるので、また行ってみよう♪

(C)

だいたい仕事が終わる時間は、夜7時前後。毎日、夏でも、冬でも帰ってすぐに作らないといけない晩御飯のメニューや、高校生の明日のお弁当の材料を考えながら自転車をこいで帰ります。そんな帰り道、芸文センター前や、ガーデンズ前などのぼっかり空いた場所で見えるのがお月さま。昨日より少し欠けた。今日は、きれいな真ん丸！もちろん季節や時間帯が変わる

と、全然違う向きで見えるお月さま。冬はとくに、空気が澄んでよく見えます。ぼんやりと眺めているのですが、見上げるとホッとします。

今年は、注目の「天文イヤー」だそうです。一番楽しみなのが、夏休みの7月末に見られる「火星の大接近」。2003年以降15年ぶりだとか。街中でも見られるそうです。赤い星ですよ。その3日前には皆既月食も見られます。

全然詳しいわけではないですが、空を見て楽しむのは大好きです。

(K)

母校の高校から葉書が。2月末に行われる卒業式へのご招待。えっ、なんで？渦巻く疑問符。よく読み返してわかったこと、わたしはその高校の20回生、そして今回は70回生の卒業、そしてそしてわれらは卒業して半世紀、ということでご招待とのことだった。自衛隊伊丹総監部のすぐ近く、創立(中学校女学校から)120周年だかの結構ハナタカさんの高校。へーしかし行ってみたいわねの気持ちも。それくらい同窓会とか記念誌とかわりと卒業生に厚く、同窓会館だって敷地内に立派に建設されていてこちらも熱くなる気持ちも学校ではありません。当時の仲間とは今も付き合いが。特に世話になっているのは弁護士になったHくん、わたし個人のことでないけれどもまあよく電話しては相談となかなか納得のいくコメント、そして実働も。「顧問料いるね」と言ったら、「いやいやいつでも電話してきて」と。世の中にはほんとにいい人が多く助けられている。彼からの依頼は「離婚の案件は扱いたくない」、とあと一つ、世の中の男性諸君に「満員電車では両手は上に。」これは絶対に助けられへんからとのこと。しかし高校卒業後半世紀かあ。

淋しいのは、次々に恩師を見送ったこと、すてきな先生たちだった。面白い思い出はその人たちと長男の高校で出会えたこと(！)。

(J)

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

3月9日(金) 手島勲矢先生「トローラー解釈(14)」

3月16日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む(55) サムエル記上38回目」